

タコを食べて窒息死したミナミハンドウイルカ in オーストラリア ～ハクジラ類におけるのどの構造について～

私たちがお餅をのどに詰まらせて苦しむ事があるように、イルカもタコをのどに詰まらせて苦しむ事があるようです。一年で最も窒息事故が起こりやすい季節、ネット上では「タコを呑み込もうとして窒息死したミナミハンドウイルカ」のニュースが話題になりました。これを聞いて「あれっ？」思った方もいるのではないのでしょうか。なぜなら、ハクジラ類は普通、ヒトとは異なり、口から入った食物と鼻から入った空気が同じところを通らないため、食物が詰まって息ができなくなるとは考えにくいのです。では、なぜイルカは窒息したのでしょうか？

2015年8月30日、西部オーストラリアのバンバリーで事件は起こりました。1頭のミナミハンドウイルカが浜辺で死んでいるのが見つかりました。小笠原と同様、この地域でも写真IDによる個体識別が行われており、死体の身元は、ギリガン (Gilligan) という成熟オス (推定年齢20歳以上) であることが分かりました。

検死の結果、大きなタコの腕が、舌や咽喉 (口腔から食道につながる部分)、喉頭 (気管の入口部分) に張り付き、1本は食道に入り込んでたようです。今回重要なのが、この「喉頭」部分です。

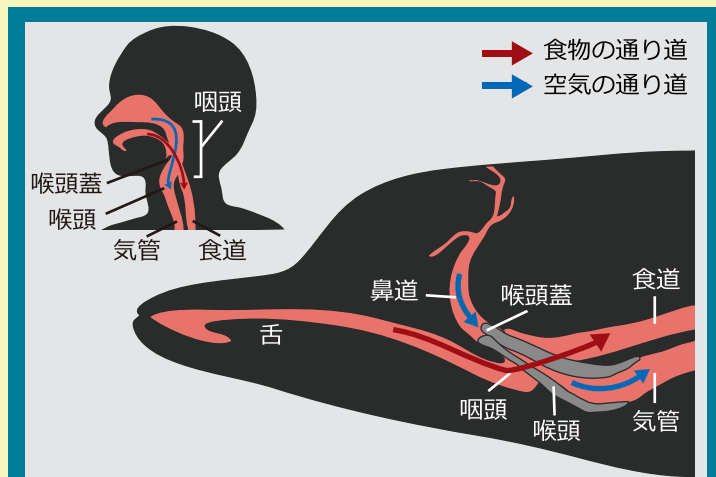


図2. ハクジラ類 (右下) とヒト (左上) におけるのどの構造

ハクジラ類ののどは、図2のように咽喉と喉頭部分が分かれる構造になっています。喉頭の先には、喉頭蓋 (goose beak) と呼ばれるアヒルのくちばしのように長く伸びた開閉口があり、これが咽喉の下から突出し、咽喉の上側に空いている鼻道にぴったりはまるという仕組みです。喉頭と咽喉との間にはドーナツ状の隙間ができるため、口から取り入れた餌は、この隙間を通ることで気管に入ることなく食道へ運ばれます。ただし、この隙間を通らない大きな餌の場合は、喉頭を一度鼻道から外して、のどを大きく開くことで呑み込みます。今回のケースでも、タコを呑み込む際に喉頭を外したようですが、喉頭蓋にタコの吸盤が張り付き、そのまま腹側へと抑え込まれてしまった結果、気管に空気を取り入れることができなくなったようです。

皆さんも、タコを食べる際はくれぐれもご注意ください。

引用: Stephens N, et al. "Death by octopus (*Macroctopus maorum*): Laryngeal luxation and asphyxiation in an Indo-Pacific bottlenose dolphin (*Tursiops aduncus*).¹" *Marine Mammal Science* (2017).

著作権保護のため、論文中の写真をご覧になるには下記のURLへアクセスしてください。

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/mms.12420/epdf>

図1. 西部オーストラリアの浜辺で発見されたミナミハンドウイルカ。口からはタコの腕がみ出ている。

写真は、Stephensら(2017) Figure 1を引用。



OWAでは、小笠原に来遊するザトウクジラの生態を解明するために、2014/15シーズンより、ザトウクジラの尾びれ写真を用いた個体識別データベースを作成しています。

今シーズンのものに限らず、ザトウクジラの尾びれ写真をお持ちで、ご協力していただける方がおりましたら、ぜひOWAまでご連絡をお願いいたします。

求む! 「ザトウクジラの尾びれ写真」